

クリスチャンの家族関係
チャック・スミス著

Christian Family Relationships

The Word For Today
Costa Mesa, CA

目次

紹介

1. 本当のテスト
2. 現実と理想
3. 違いを理解する
4. 神の順序の規則
5. クリスチャンの倫理
6. 服従と愛
7. 不信心な要求
8. お互いに近づく
9. 従う力
10. 昔の子供の運命
11. 主にあって
12. 父と母
13. しつけ
14. みことば
15. 雇用者—被雇用者

要約

紹介

私たちの多くは、バランスのとれた人生をおくることを望んでいるでしょう。人の人生には、二つの側面が存在することを知っている事はとても大切です。それは、横の関係と縦の関係です。横の関係とは、人が人とお互いに持つ関係です。縦の関係とは、神との関係です。この二つの側面は、中心の軸に固定されています。

私たちは、友人とけんかをしたりすると、この横の軸の調子が悪い状態になってしまい、それが修正されるように願います。私たちは、このバランスのとれていない状態になると、また並行に戻そうと、個人的な関係をやり直そうとしたり、調整したりします。私たちは、年中バランスのとれた人生に戻そうと、試みているようです。事実、困難な事は、一つの関係が回復したと思われるやいなや、また違った問題がやってくることです。正しい関係を人々と保つことは、不可能のように思われます。

例えば、職場での関係がとてもよいと思っても、家での関係が悲惨だったりします。そして、家での状況を直そうと務め、スムーズになったかと思うと、職場ですべてのことがうまくいかなかったりします。ですから、私たちはいつでも、この横のバランスを持続的に維持しようと戦っています。

現実に、このバランスのとれた人生を保つための答えは、横の側面を正し続けることではありません。その答えは、私たちの人生において、縦の側面を正すことにあります。神との正しい関係は、私たちの持つすべての人間関係に影響し、横の側面にバランスをもたらします。イエスは、言われました。「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」（マタイ 6：33）

心理学の弱点は、心理学者が、あなたの個人的な問題の助けをしようとするときに、その兆候だけをどうにかしようとすることです。問題の核心は、あなたの神との関係にあり、この事が正されるまでは、他のすべてのものが正されることはありません。

神のことばに立ち返り、私たちが神との正しい関係を持つためには、心の奥底から、イエス・キリストを主であり、救い主であることを受け入れ、献身しなければなりません。

聖書では、私たちが他の人と正しい関係を持つためには、神が油注がれた原則に従って生きなければならないとも言っています。みことばは、私たちの家族に愛と調和をもたらし、神に油注がれた具体的な原則を教えています。

この、コロサイ 3 章と、エペソ 6 章の簡潔な学びは、提案と実用的な適用法をもって、家族関係を強めるために重要な原則に焦点を置いています。この本によって、皆さんがもっと、神の命令と神の多くの祝福と出会うために、みことばの学びを進める励ましとなりますように願っています。

1. 本当のテスト

キリスト教の本当のテストは、教会にあるのではなく、家庭の中にあります。どれだけ清く正しく教会の中で振る舞うというだけでなく、皆さんのキリスト教が、実用的に、毎日の現実の生活の中でどれだけ実行されているかということなのです。

家庭でクリスチャンとして生活できないなら、外での生活は偽ものということになります。教会に来て、クリスチャンに見えるよう、振る舞うことは難しくありません。私たちは、教会に集って、歌って、主を礼拝し、霊的になります。ここで、私たちが、誠実でないと言っているではありません。しかし、家庭でも同じことが実践されていなくてはなりません。

私は、いつも肩を並べて生活を共にしている一番近い人といるとき、クリスチャンとして生きる必要があると思います。私のキリストとの関係が、私の妻との関係に間違いなく影響するべきです。私とキリストとの関係によって、私と子供たちとの関係がより良いものとなるべきなのです。

有名な牧師、パーカー博士は、あるシカゴの教会で講演をしていました。主がみことばの学びを通して祝福して下さった何日かのサービスの後に、分かち合う時間がもたれました。人々はこのパーカー博士のミニストリーとみことばを通して受けた祝福を話し合いました。ある女性が立ち上がって言いました。「私は、これらのレッスンを私にしてくれたことを本当に感謝しています。そして、神が私を愛して下さっていることを本当に感謝します。このイエス・キリストにある神との関係を本当に感謝しています!」

この女性が座ろうとすると、パーカー博士は言いました。「ちょっと待ってください。この新しいイエス・キリストにある関係は、家庭においてあなたにどのような影響を与えたか教えてください。これは、あなたをより良い母親にしましたか?また、より良い妻にしましたか?あなたは夫に対し、イエスとの関係のゆえにもっと優しくなりましたか?これは、本当にあなたをもっと良い妻そして、主婦にしましたか?」

博士は、後ろに座っていた牧師が自分の上着を引っ張るのを感じました。彼は、「もっと言って!それは私の妻なんだ!博士。」とことばをかけました。

私たちのクリスチャンの経験は、家庭の中の関係から表わされるべきです。しかし、私たちは、このキリスト教の原理を適用することは簡単ではないことを認めなければなりません。私たちは、真実を証明することができて正しいことを認め、それを望むことができますが、困難はそれを実行する時に起こります。

二重の生活を一つにまとめるのは容易なことではありません。必ず問題が起こってきます。ですから、本屋に行くとき結婚に関する本が沢山あるのを見かけます。人々は、家庭において幸せと平和の関係を得るために、何か新しい秘密のフォーミュラがないかとそれらの本を買い求めます。

この状況は体重をコントロールしようとすることに似ています。誰でも、答えを約束する新しい企画を出してきます。「ダイエットも、運動もしないで50ポンドやせます!簡単です!10ドルを送ってください。秘密を教えましょう!」私たちは、いつでも、簡単に手に入る幸せと成功を求めているのです。

現実には、簡単な道はないのです。成功する幸せな関係には、多くの犠牲が伴います。二人の人生を混ぜ合わせて、一つとする事はとても難しいことです。

パウロは、とても賢くこう言い残しました。「そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。」（コロサイ 3：14）それは、私たちの一生の中で、また、人生を通して働いている神の愛だけによるのです。そして、私たちがその愛に従うことで、幸せに二つの人生が一つに混ぜ合わされることに成功するのです。

2. 現実と理想

人、それぞれが、自分の理想像を持っています。現実の自分と、理想の自分、それは、自我と、超自我（自我を抑制する良心など）です。自我と超自我の違いの度合いは、人の精神的な健康状態をはかる基準となるはずですが、もし、現実と理想に広大な広がりがあるならば、神経病患者であり問題です。もし、現実と理想にそれほど差がなければ、あなたは、おそらくとても落ち着いた（安定した）人でしょう。

しかし、どちらの人が「現実の人」なのでしょう。それは、自分について本人だけが知らないのではないのでしょうか。なぜなら、あなたは、自分の理想像を築いているからです。ことわざで「幸せな妻ほど夫の誇りになる」というものがあります。なぜなら、夫は妻の幸せの理由が自分にあると信じているからです。理想の自分は、自分をどう見ているかです。多くの場合、それらの視点がずれていることがあります。私にとって、自分についての真実を知る事は難しいことです。その結果、私は家庭に存在する問題の責任や非難を無理をして、しつこく受け入れているのです。

「あなたが私のそばに置かれたこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」（創世記 3：12）私たちはいつでも、間違いを人のせいにしようとして理由を探しています。私のせいではないのです。私が批判されることがあってはならないのです。「彼がちゃんとしてさえくれれば！」「彼女がみことばの通りのことをすれば、俺たちの結婚生活は幸せに成功するのに！」私たちはいつもお互いに相手を変えようとし、自分自身に変わる必要があることに気付かせません。私は、どんな場合においても、お互いに変えられる必要があると思います。

3. 違いを理解する

聖書は、「男と女とに彼らを創造された。」（創世記 1：27）と言っています。賢くなくても、男と女の違いに気付きます。私たちが、皆、認めることです。しかし、男と女の間には、私たちが気付かないとても大事な事（複数）があります。二つの人生が混じり合うときに幸せでいたいなら、これらの違いに気付く必要があります。

神が、最初の人を創造された時、神は人がひとりでは完全でないことに気付かれました。人は、一人では完全になれないのです。神は、「人が、ひとりであるのは良くない。」（創世記 2：18）と言われました。神は、女性を通して男性が完全にされ友を持ち、愛を見つけるために女を創造されました。それは、動物の王国からは得ることのできないものです。アダムは、動物の王国の中に住

んでいました。そして、神は、その中にアダムにふさわしいものを見つけられませんでした。神は、男が完全にされるために女を創造されました。

女を創造するに当たって、神は、男が強く大きく、女は小さめで弱々しい体つきに区別して創造されました。

体つきのちがいととも、特定の感情的な違いも創られました。感情の領域で神は、女性を男性よりもっと感受性豊かに創られました。感情的に、男は態度が荒っぽいのが普通です。男性の感情は狭い範囲で上下します。女性の感情の範囲はとても広いものです。感情が高くも低くもなりやすいということです。そうです、男性でも、興奮したり、意気消沈したりします。しかし、一般的には、男性は女性ほど、その感情の上げ下げを認識し、楽しむことはありません。男性は女性ほど、極端に感情的になることがないのです。

知性に関する限り、私はまったく男性と女性に少しの違いもあると思っていません。私は女性には男性と同じくらいすばらしい理解力と考えを処理する能力があり、彼らは、直観力と呼ぶエリアで私たち男性よりも、やや優れていると思います。霊的に、もちろん、男性と女性は神の目にはひとつです。（ガラテヤ3：28）

しかし、私たちが身体的特徴において、また、感情の範囲において違うように創られたので、神は、夫と妻の間の関係に、原則を置かれました。これらの原則を守ることで、男と女は、神が望まれる充実感、喜び、そして幸せを見出すことができるのです。

4. 神の順序の規則

私は、神があなたを愛しておられ、あなたの人生に素晴らしい計画を持っておられることを信じます。私は、それを確信しています。私は、神があなたの人生を喜びで満たしたいと望んでおられることを信じています。そして、神はあなたの人生が、満ち溢れる器（コップ）のようであることを望んでおられるでしょう。神がとても賢く、愛に満ちた父なので、神の子供たちの喜びと幸せについて感心を持っておられることを信じています。神は、あなたが幸せでなかったり、落胆していたり、問題を持っていたら、悲しまれます。神が、あなたが、満ち満ちた豊かさで一杯の人生を送ることを願っておられることと信じています。イエスは言われました。「わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」（ヨハネ10：10）

このように、神はどのように私たちに創造し、また私たちの許容量と能力、必要を知った上で、知恵をもって特定の原則または規則をつくりました。このルールをつくり言われました。「これは、喜び、幸せ、平和、愛と豊かな生命への道です。」

私たちの問題は、神の言われることに、いつも賛成していながら、実際に行なわないことにあります。私たちには、神の規則に賛成するかもしれませんが、でも、私たちは、規則とその適用の間に違いがある事に気づきます。なので、もし私に聖書を信じるかと聞くと、私は、はい、と言うでしょう。私は、いつも聖書が言っていることを実行しているのでしょうか。—いいえ。そして、いつでもその規則に従がわなかった私自身が痛い目にあうのです。

神の規則は実は幸せの規則なのです。それらは、成功の原則です。ダビデは言いました。「まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。」

(詩篇 1:1-3) モーセは、ヨシュアに、主の律法の書を、あなたの口から離さず、昼も夜もそれを口ずさまなければならないと言いました。「そうすれば、あなたのすることで繁栄し、また栄えることができるからである」(ヨシュア 1:8)

神が備えた規則を見ると、「これを守ることによってどうして幸せになるのか。」と、私は心の中で神の規則に対し反論するかもしれません。しかし、実際は、私がそれらの規則に従うまでは、幸せになることはありません。今日この世は、欲求不満の人々で溢れています。彼らは、—自分の人生がどんどん過ぎて行く—という感覚を持っています。「この人生には、もっと何かがあるのではないか!」と。ですから、満たされること、満足感、何かでこのきちがいじみた欲望を何とかしようと捜し求めています。

これは、神が備えた神の規則と討論し、神の命令に服従することから離れて、幸福感と平安を得ようとしていることの結果です。神は特定の順序を据えられました。あなたは、それを討論し、議論し、違反をするかもしれません。しかし、真の平安、幸せと喜びはあなたがそれに従うまで見つかることはありません。

5. クリスチャンの倫理

クリスチャンの倫理について、まず、私たちが気付くポイントは、相互関係の義務を宣言していることです。ギリシャ哲学、ローマ文化、また、ユダヤの文化の倫理でさえ、相互関係の義務を含んでいません。夫は、絶対的な主人であり、妻は(夫の)所有物でした。妻は何の権利も持っていませんでした。

クリスチャンの倫理は、妻には、夫に対する義務があるだけでなく、夫も妻に対して義務があると言っています。他の(クリスチャン以外の)倫理では、夫は妻に対して何の義務もありません。クリスチャンの倫理では、子供が親に対する義務だけでなく、親が子供に対する義務も挙げられています。クリスチャンの倫理は、奴隷が主人に対する関係だけでなく、主人が奴隷に対する関係も定義しています。

私たちは、霊的な法則の原因と結果が物理的な法則と同じくらい確実であると理解する必要があります。もし、あなたが高い屋根からとぶことによって重力の身体的な法則を犯すならば、あなたは苦しみを味わうこととなります。同様に、あなたの関係を定める霊的な法則に逆らうならば、あなたは苦しむにちがいないです。ギリシア人はこう言ったものです。「神々のサイコロは、(鉛などで不正に)重みをつけてある。」これは、神には歯が立たないという意味です。神のみことばは確かなのです。

6. 服従と愛

女性達はイエス・キリストとキリスト教に非常に感謝するべきです。それは、キリスト教ができる以前の女性の地位は、奴隷とあまり変わらないものだったからです。

私たちがガテマラに行った時、アンティグアに向う道で、ガソリンがなくなっていました。私たちといっしょにいた友は、先にガソリンを求めて歩き出しました。私たちが、見回して、この国の輝かしい美しさに主を賛美していると、この深い森林地帯の丘から、茂みを分けるために枝が折れる音が聞こえてきました。見ると三人の女性が山から下りてくるのが見えました。私には小道さえ見えませんでした。彼女たちは、50 から 75 ポンドもありそうな巨大な枝の束を頭に乘せて運んでいました。彼女たちは一日中森林の中で、木を切っていたのでしょう。そして、それらの束を運んで家に帰り、食べ物を調理するのでしょう。

イスラエルで、私たちは、多くのベドウィン（アラブ系遊牧民）を見ました。女性たちは畑仕事をしていました。彼女らは耕し、雑草を抜いて、植物を植える作業をしていました。一方、彼らの夫たちはぶらぶらしたり、羊を売買し、コーヒーを飲んでいました。ガテマラとイスラエルのこれらの女性は、働き者でした。彼らには、極めて限られた権利または特権しかないのです。

キリスト教は、女性たちに多くのことをもたらしました。コロサイ人への手紙の中で、パウロはこのように女性たちに話しています。「妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい。」（コロサイ 3 : 18）私は、女の人たちが「この服従について何度も聞いてきたけれど、もう沢山だわ。」と言っているのを聞いたことがあります。多くの場合、何度も口に出すことで私たちは、特定の義務をはたしたつもりになって解放されます。私たちは、女性の夫に対する服従の必要について、非常にもっともらしく、そして、巧みに話すことは簡単です。妻たちは集まり、「どのように服従するべきか」を分かち合います。しかし、それについて話すことによって、彼らは彼ら自身がそれをする実際の義務から解放されているつもりになっています。

みことばの中には、妻が夫を指導している箇所はありません。エデンの園に戻って、その時から、問題が始まったのでした。

神の規則では、夫が家の頭であり、妻が夫に従います。

自然と、ここには順序があります。この真の順序では、キリストが御自身から父に従ったように、夫はキリストに従うということです。夫は、キリストに従い、妻は、夫に従うということは、妻は実際に夫を通して、キリストに従っているということになります。

7. 不信心な要求

みことばが、不信心な夫の要求に妻が従わなくてはならないと教えているとは信じていません。お前が妻だから夫の言うことをどんなことでも従がうべきだと言うのはとてもばかげたことだと思えます。このような考えで、もし、服従していたら、どんな悲惨な状況においても主が守ってくださるからと教える人もいます。私はそれに賛成しません。

パウロは、「妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。」（エペソ 5 : 22）第一コリントでは、パウロは従うべき順序を並べています。実際に妻のかしらは夫であり、すべての男のかしらはキリストであり、キリストのかしらは神です。（第一コリント 11 : 3）

もし、この命令の順序がどこかで壊れてしまうと、神の順序がくるってしまいます。夫が妻のかしらなのは、キリストが夫のかしらである時だけです。もし、キリストが夫のかしらでなかったら、妻はまずキリストに服従すべきです。その妻は壊れたつながりを飛び越します。ペテロは議会で言いました。「人に従うより、神に従うべきです。」（使徒5：29）それは、夫が、不信心な要求を妻にしている家庭での関係に適用されます。

まず、女性は結婚相手についてもっと慎重になるべきだと思います。結婚する前に、この男性が自分の従っていける人であるかどうかを決めます。もし、その男性の判断を疑い、彼が愚かだと思えば、最初からどうして結婚したのですか。多分、ユダヤ人の文化で、結婚相手を決めてしまうことは正解だったのでしょうか。ユダヤ人は、結婚のような大切な決断は気まぐれな感情を持つ若者に任ずることがあってはならないと言っていたのでしょうか。私は、多くの結婚が、そうすべきでなかったことを認めます。それでも、神聖な順序の中で、神の規則は、「妻は、夫に従がいなさい。」ということなのです。

主を愛し、主を求める、従順な夫を持っているなら、何と素晴らしいことでしょう！どれだけ、夫に従がうことが容易になることでしょう。私は、ある夫が夜、居酒屋に飲み友だちといた時のことを読みました。居酒屋が閉店する頃、賭けをしました。全員がこの人の家に寄って、妻を起こし、文句も言わずに、ずっと笑顔で、夕飯を用意させることができるかどうかという賭けでした。男たちはこの賭けに乗りました。

そして、午前2時過ぎに彼の家に押しかけました。彼は、妻のところに行き、ベッドから起きてみんなに食事を用意するように言いました。彼女は、笑顔で文句も言わずに、台所に行き食事を準備しました。それから、彼女はテーブルに食事を出し、ずっと笑顔を保ちました。夫の友だちは、信じられませんでした。彼らの賭け金を払うと、彼の妻をほめました。「食事を作るわけないと、あなたの夫と賭けをしたんです。私たちは負けただけ、見る価値はあった！どうしたら、こんなに迷惑な状況の中で愛想よくしてられるのですか？」

彼女は言いました。「私はクリスチャンです。主を愛しています。私はもうここにいるのが長くないことを知っています。そして、天国で神とともに喜びをもって住むことを楽しみにしています。」

「私の夫はクリスチャンではありません。彼の将来は真っ暗なので、私は、ここにいる間だけでも彼をできるだけ幸せにしたいと思ったのです。」この夫は自分の罪を認めたため、一週間以内に、主を受け入れました。

神が妻に対し、夫に従がうようにと命令される時、神はこの男の男性的なイメージについてすべてを知っていました。神は、男は本能的に問題を解決する能力があると思いたいことも知っています。男は強さと能力に頼られたいと思っています。妻が「あなた、あなたの思うこと何でもしてください。あなたのことをこの世で一番賢い人だと信じてますから。」と言われるほど、いい気分させてくれるものはないのです。アーノ・ペダーソンが子供用家具店を始めた頃の面白い話を私にしてくれました。1930年代のことです。バーバンク（ロスアンゼルス北部）の家から、サンフランシスコでその年に開かれたワールドフェア（展示会）に自動車で行こうと決めました。車には、荷物が一杯積まれ、いざ出発と言う時に、ペダーソン婦人は言いました。「アーノ、ベビーカーが乗っていないみたい。」

アーノは答えました。「もう乗らないよ。」

婦人は、「持ってかなきゃだめよ。なかったら、フェアーにもいけないかもしれないわ。」

そして、アーノはベビーカーを車の上に縛りつけ、フェアーに向いました。何マイルか走った頃、婦人は、「アーノ、あなたはこの世で一番頭のいい人だわ。車のトランクに入るよう、折りたたみ式のベビーカーをデザインしたらどうかしら。」フェアーから帰って来て、いく晩もかけ彼はガレージで折りたたみ式ベビーカーをつくりはじめました。出来上がった時、近所の人は皆それを一台づつほしがり、これが、折りたたみ式ベビーカーとペーダーソン家具会社の始まりとなりました。彼は、自分が妻の望むようなこの世で一番頭のいい夫でないことを知りつつ、いつでもそうありたいと信じ続けました。

8. お互いに近づく

結婚は五分五分だと言われています。そうだと、私は思いません。私は、十分十分だと思います。もし、あなたが五分だけ捧げたとしたら、それは成り立ちません。幸せで、成功する結婚生活を送るためには、二人が100パーセント捧げなければなりません。私は、夫が家の頭で、妻が夫に従うというのが主の命令に当てはまる、神の規則だと思います。

前に言ったように、クリスチャンの倫理ではお互いの義務が紹介されています。クリスチャンの倫理において、「夫たちよ。妻を愛しなさい。つらく当たってははいけません。」（コロサイ3：19）ギリシャやローマの倫理においては、夫は妻を愛する必要がありませんでした。事実、ギリシャの哲学者たちによると、男はそれぞれ、楽しむために愛人やめかけを持つべきで、妻は血筋の通った子供を生むために持つものであると言われています。

しかし、クリスチャンの倫理は、「夫よ、妻を愛しなさい。」と言っています。この、愛と言うことばは、アガベであり、捧げ、自己を犠牲にする愛のことです。

アガベは、神が私たちに、まさにこの世を愛されたがゆえに与えてくださった愛のことです。（ヨハネ3：16）これは、夫が妻に対してもつべき愛のことです。エペソでパウロは、やや強調して「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。」（エペソ5：25）この命令を夫に与えた時、神は、女性の感情的な必要もすべて知っておられました。女性の最も大きな必要は、一人の夫に誰よりも愛されていると知ることから来る安心感です。妻が一番であり、夫が他の女性に目を向けていないことです。女性の性質は、夫がこれらの事実をことばと行動によって常に表していることを要求しています。夫は妻から、「私の髪型大丈夫？」「このドレスはオッケイ？」とか「私どう見える？」とか言われるのをよく聞きましょう。妻は、「お前は、なんて素晴らしく、夢のようだ。この世で最も美しい女性で、愛してるよ。」と聞きたがっているのです。皆さん、いつになったら、気が付きますか。

今度は、間違っただけに進んでしまったときのことで、私たちはお互いに、せめ合ってしまうことがありますか。多くの場合、妻は、夫に従うより反抗しています。夫の下す、すべての決断にいちいち討論し、夫の権威に逆らい、夫の知恵と判断に挑戦するのです。これはある意味で、夫の男としての自我を破壊してしまいます。ですから、夫は、妻に自我を見せつけ、冷たくよそよそしく、反応します。

夫が冷たくなればなるほど、妻は、夫の権威に反抗してきます。妻が夫の権威に反抗すればするほど、夫はもっと冷たくなっていきます。そうすると、どんな状況でも二人がどんどん離れていきます。夫がどんな決断をしようと、妻によって挑戦され、拒否されます。決断の一つ一つが大きな爆発と、討論と、分裂をもたらします。このために、男は、妻に愛を表現しながらなくなります。この時点で、夫は妻に対して何の愛も持たなくなってしまう大きな可能性があります。夫が全面的に冷たく感じるのです。

妻は愛から来る安心感など感じなくなります。妻は、安心感がなくなると、「夫にどうして従がえるものか。夫は私のことなんて考えてもないんだから。自分のことしか頭がないんだから。」と思うようになります。

さて、もしこの過程を元に戻させることが可能なら、男と妻はもっともっと近い関係になります。夫が妻に愛を表現すればするほど、妻はもっと安心感を感じるようになります。夫の愛によってもっと安心すると、妻は、もっと夫の権威と決断にすんなりと服従することができるようになります。妻が夫に従うほど、夫は愛を自由に表現しようとします。ですから、皆さんはこの過程を正しい方向に進ませていることが必要です。

残念なことに、多すぎるほどの結婚が、夫婦が近づくのではなく、離れていっている過程を通過しています。しかし、どちらが先でしょう。鶏ですか。卵ですか。どちらが先にあきらめますか。夫が先に愛を表現しますか。妻が先に従がいますか。

大抵、夫は「愛を表現しようと、やっては見たんだけど。」と言うでしょう。しかし、妻は、「あなたの負けよ。私は私の道を行くことにしたの！」

夫は、妻が状況を悪く利用するのではないかと心配します。一方妻は、「私は従ったのよ。でも、夫が愚かなことをしたのよ！なんてばかばかしい！」

どこで、折れるのでしょうか？どこかの離婚裁判所ですか？あなたは、実際に譲ろうとしたり、愛を示そうとしないことで、どんどん相手から離れていってしまいます。

理想的には、妻は主にあって夫に従がわなかったことを告白し、夫はキリストが教会を愛された様に、妻を愛さなかったことと、妻に苦味を持ってつらく当たったことを告白し、主の御前に二人が膝をついて主の律法に従わなかったことを告白し、この問題に対処するべきです。そして、夫と妻は、みことばの型に従がうために、聖霊の助けを求めなくてはなりません。

「神よ、妻に安心感を感じさせ、従がうことができるように、愛を表せる様に助けて下さい。」
「神よ、すべてを失っても、お互いが残り、愛とともに主がいてくださることを理解し、夫と討論しないで、夫が愚かなことをしていると感じたときに黙っていられるよう助けて下さい。主よ、それだけが私たちに必要なことです。夫とその権威に従えるように助けて下さい。」

9. 従う力

パウロの挙げている次の関係は、子供と親の関係です。「子どもたちよ。すべてのことについて、両親に従いなさい。」（コロサイ 3：20）神の律法の下では、子供は両親を敬うように命令されて

います。そして、敬意をはらい、親に従~~う~~よう命令されています。パウロは、「子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。あなたの父と母を敬え。」これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。」（エペソ6：1、2）と語っています。

神の多くの約束には条件が伴います。この約束は、父と母を敬うことで、長い命をまっとうできるということです。律法によると、もし、子供が両親を敬わなかったり、尊敬しなかったら、親は町の長老のところに子供を連れて行き、「私には、頑固で反抗的な子供がいる。この子は大飯食いで大酒のみだ。」と言います。この子供は、石撃ちの刑となり殺されてしまいます。この子供の地上での人生は長いものではなくなるでしょう。

10. 昔の子供の運命

パウロがエペソの手紙を書いていた頃、ローマ帝国は子供のことがほとんど視野にありませんでした。父親は生きている限り、家で絶対的な権威を持っていました。もし、あなたが、50歳になっても父親が生きているなら、父親の支配の下にいます。子供の生死の絶対的権限も父親にありました。父は望めば、子供を殺すことも許されていました。父は、子供を奴隷として売ることもできました。父は子供をどうにでもできたのです。

この絶対的な支配の下で典型的なある手紙が見つかりました。一人の夫が、商用でアレキサンドリアへ出かけていました。彼は妻に、愛情のこもった手紙を書きました。彼は、アレキサンドリアで遅れてしまって、彼女が身ごもっている赤ん坊の、出産には間に合わないということでした。彼は、「もし、男の子なら育て、女の子なら捨てるように」と伝えました。

多くの子供たちが捨てられました。毎晩のように広場では、（親が）いないローマ人の子供たちが捨てられました。朝には、奴隷として売るためにその子供たちを捨てる人々がいました。人々は子供たちをまったく大事にしていませんでした。ほしくなかった子供たちを捨てるのは珍しいことではありませんでした。

ローマ帝国の支配下の以前は、神がイスラエルの子を連れて行った、初期のカナンの地では、赤ん坊をいけにえとして捧げる事は珍しくありませんでした。考古学者たちによって、多くの家庭で建物の間に横たわる乳幼児の骨の入った壺が発見されています。それは、家を建てる時に、壺に赤ん坊を入れ壁の一部とすることは、幸運と吉兆の印でした。乳幼児のいけにえはとてもよく行なわれていました。

キリスト教は子供たちに深く影響を与えました。私たちが人の命を尊重し、尊ぶようにさせ、愛することを教えてきました。皆さんは、私たちが、子供を愛する事は自然で、本能的なことだと思っているかも知れませんが、クリスチャンでない文化の中には、子供に対する愛をまったく示さないものもあります。子供は、負担、義務、そして、責任と考えられています。

ローマ人の考え方の中であって、パウロは、「子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。」（エペソ6：1）と書いています。第二テモテ3：1でパウロは、「終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。」と語っています。世の終わりの兆候の一つは、子供たちが親に従がわなくなることです。（第二テモテ3：2）ローマ人に宛てたこの手紙の中で、パウロは、私たちに、異教徒の世界の腐敗し墮落した状況について話しています。その世界とは、神が墮落した心を持つ者たちに**明渡**され、神がもうその汚れのためにあきら

めた世界です。パウロは、この墮落した世界の恐ろしい状況を挙げ、親に反抗することは、道徳的な腐敗の印として書き記しています。（ローマ1：30）

11. 主にあって

聖書では、「子供たちよ、親に従いなさい。」ここで、その条件があることに注意してください。

「子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。」（エペソ6：1）と言っています。ここで、親の中には、ひどくない親もいるということが分かります。親の歩んでいる人生を見て、親を敬うことは不可能なことです。クリスチャンとしての考えで従うことに相反する要求をしてくる親もいるでしょう。子供は、神に不信心な親の要求には従う義務はありません。又、親の中には、父親、母親と言った肩書きを受けるべきでない者もいるでしょう。子供たちを不信心な行動に導く人々です。

私は、幼い頃から父親に襲われたり、性的暴行を受けたことのある、多くの悲惨な事情を持つ、10代の女の子たちにカウンセリングをしてきました。私は、このようなことは、男性が（女性に対して）することで、最も不快で、不健全なことだと思いました。獣でさえそんなに卑しいことをするとは思いません。このように、私は子供は、そういう欲望や、愚かさに従わなければならないとは思いません。

もし、道徳的な問題が関わっていなかったら、何が起こるでしょう？例えば、「私は、今晚、教会に行きたい。」と言うと、親は、「だめです。宿題をしなさい。」と言いました。このような場合は、あなたは宿題をするべきでしょう。ここには、道徳的な問題が関わっていません。

「子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。」神に従う親を持っている事はどんなに、素晴らしいことでしょうか。私の生涯の感謝のリストの一番上のほうに、私が神に従う母親と父親の家系にあることが載っています。私が、敬い、尊敬し、従うことのできる親を持っていたということは、私にとって、なんという特権であり、祝福であり、神の恵みだったのでしょうか。私の両親は、神を深く愛し、主に心から従って生涯を過ごしました。家庭は、愛で満たされていました。それこそ、神があなたの子供たちに築いてほしいと願っている家庭ではないでしょうか。

私の心は、今日私たちが出会う若い人々を思っています。私は、間違いもおかすので、他の人の批判をするべき者ではないのです。私は、ただ、私が人として与えられている責任を受け入れることを信じています。誰の上にも同じ雨が降り、同じ太陽が輝いています。雨の中で、出て行って主をほめたたえる人もいれば、「まったくもう、また雨だ。」と言う人もいるでしょう。また、「なんて、いい天気でしょう。」と言う人もいれば、「熱くて、悲惨な日になりそうだ。」と言う人もいます。同じ雨、同じ太陽なのに。あなたなら、どうしますか？あなたの姿勢はどうですか？

しかし、多くの若者が、育った環境を、今の行動の理由にしているというの分かります。それは、言い訳になりませんが。あなたは、「父親のせいで、こうなったんだ。」と言っている、あなたはその状況を、克服することができます。神に感謝です！それこそ、イエス・キリストの福音なのです。

あなたの父親はアル中で、母親は売春婦かもしれません。あなたが、一歳のときにあなたを捨てたかも知れません。あなたは、身寄りのない子供だったかも知れませんがそれでも、とてもすばらしい、力ある神の子供なのです。どんな過去の状況をも克服できるのです。他の人のせいにして、

「悲惨な過去があるから！悲惨な家庭で育ったから！私は、意地悪い、哀れな、ひねくれ者にしか
なれない。私が、今の私なのは、彼ら（親の）せいだ！」あなたの腐った陰悪な態度を、幼年期の
せいにして生涯を過ごすことはできません。

あなたが経験してきた、どんな過去の状況も、聖霊の力を通して、克服することができます。私た
ちは、そのみわざを何度も何度も見てきました。イエス・キリストがあなたに触れると、あなたは
完全に換えられ、新しい者に変えられます。あなたの「アイルランド人のかんしゃく」に戻らなく
てもいいのです。新しい性質がイエス・キリストを通して、あなたのものになります。

私たちが見守る機会があった、喜ばしい証しの一つは、イエス・キリストを受け入れた多くの若者
の人生が、劇的に換えられたことです。これは、ジョニーが家で親に対する態度があまりにも変わ
ったので、今度は親が、子供の人生を急激に換えたものは何かと、興味を持ったほどでした。その
結果、多くの親たちがキリストの新しい人生を経験することになりました。神は、態度を変えて家
に戻ってきた若者を通して、多くの新しいクリスチヤンの家庭を創られました。親たちはイエス・
キリストがもたらす大きな違いを目の当たりにしたのです。

12. 父と母

クリスチヤンの倫理は、「子どもたちよ、親に従いなさい。」と言うことだけでなく、「父たちよ。
子どもをおこらせてはいけません。」（コロサイ 3：21）とも言っています。私たちは、多くの場
合、子供たちを落胆させてしまっている事は、悲しいことです。

私は、子供を束縛しすぎることで、落胆させてしまうと信じています。私たちは、「だめ！だ
め！」と言い過ぎてないでしょうか。

子供が小さい時、家を子供がいじってもだいじょうぶなようにします。もし、遊ばれたり、壊され
たくないものがあるなら、子供の手の届く場所に置くより、届かないところに置くでしょう。そう
することで、あなたの大事にしてるものに子供が近づくたびに「だめ！だめ！」と、言わなくてす
みます。特定の禁止するものがあるべきですが、必要以上に禁止することは、子供を落胆させるこ
とになり、子供の人生を否定的なコンプレックスをもって始めさせてしまいます。私は、「だめ！
だめ！だめ！だめ！」と言って歩き回る子供を見たことがあります。

私は、子供が冷酷で絶対的に支配されることによって、落胆することがあると信じています。私た
ちは、「私がそうだとおっしゃるので、そうしなさい！」と言う必要はありません。親は子供に対し、
率直で道理にかなっているべきです。

私は、子供に厳しく、満足しない親によっても落胆してしまうと思います。数日前に、浜辺で、あ
る女の人が家族を連れて出てきて、砂の上に敷物（毛布）をひきました。そして、言いました。
「砂が毛布にかからないようにね！気をつけて！食べ物に砂が入らないようにね！危ない！水に入
っちゃだめよ！ここに楽しむために来たんだから、楽しむのよ！」あなただったら、家に帰ろうと
思ってますか。神経質すぎるのも、子供を落胆させます。

また、親は子供がすること、何に対しても満足しない態度をとることを避ける必要があります。例
えば、子供が書いた絵を持ってきたとき、「どうして、はみ出してるじゃないか？」と言ったりす

ると、子供は気を落としてしまうでしょう。子供は励まされる必要があります。親として、気をつけましょう。多くの場合、私たちは、なかなか満足できない者になっているのではないのでしょうか。

私たちは、長く不機嫌でいることで、子供を落胆させてしまいます。子供が悔い改め、謝った瞬間に、私たちは、その事柄を忘れるべきだと思います。何日も、「そんなことをしたなんて！まったく、信じられない！」「私の高い食器をわってしまって！」と、罪悪感を持たせ続けることはやめましょう。

もし、神が私たちに対して、それをしたらどうでしょう？私たちが、間違っただけのことをして神に赦しを求めた時、神が長いこと、私たちの失敗した事実についていつまでもうめいてほしくありません。

子供は、（親の）はやとちりや間違っただけの言いがかりによって、落胆すると思います。私の父親は、すごい人でしたが、完璧ではありませんでした。実際、興奮しやすい人でした。私には、ビルという弟がいて、とても、やんちゃでした。ビルが生まれる前、父は母によく言いました。「もし、この子が赤毛だったら、キャデラックを買ってやろう。」どうやったのか知りませんが、母は赤毛の子を産みました。私の弟、ビルはまったくの男の子で、父もそして、家族も皆、彼を心から愛しました。ビルは、末っ子だったので、みんなで彼を甘やかしました。

ビルが叫んだり、泣いたりすると、父は気が狂いそうになりました。ビルはそれを知っていました。ですから、兄と私がビルの気にいらぬことをしようものなら、ビルは、「見てろ！仕返ししてやる！」と言って叫びました。父は、とんできて、ベルトをはずし、私と兄をたたきました。それから、父は尋ねました。「どうしたんだ？」ビルが叫んだ時は必ず、父はとんできて、まずベルトで（私と兄を）たたいてから、尋ねました。私はいつも悪くなかったわけではありませんが、何度となく、まったく関係ないことで、たたかれたことがありました。それは、私の父の興奮しやすい性質でした。彼はまず、罰してから、尋ねたのでした。

もし、私たちが持続的に子供に罪をきせ、判断する時によく考えないでいたら、子供たちは大変、落胆することになるでしょう。

私は、危険から守るために、いつも子供が押さえつけられていても落胆してしまうと思います。「外に出て、野球をしたらだめ！けがするでしょ。指を痛めるでしょ。もし、ボールが変なふうに指に当たったら、けがして、はれてしまって... 自転車も乗ってはいけません。危ないから。」どうでしょう。生きてるとは危険なことです。危険から守るために、いつも子供を押さえつけても、子供は落胆してしまいます。

さて、親として、慎重さ（冷静さ）、判断力、知恵を実践しなくてはなりません。子供は、知らない人の車に乗ってはいけないなどの、特定の危険性を警告される必要があると思います。しかし、子供を1日24時間見張り続け、けがや損傷から守る事はとうていできません。それは、人生の一部分であり、成長する過程の一部です。

私は、子供の年齢にふさわしくない性質を試すことも、子供を落胆させてしまうと思います。例えば、2歳の小さな子供が、感情的になった時、「あなたは（気性の）悪い子ね！」って言うてはいけません。私は、胸部のレントゲンをとった男の子の話を知りました。医者がレントゲンを見ながら、心臓の部分を指すと、その小さな少年は、自分の心臓が真っ黒に写っていたので泣き出しました。私は、子供が真に理解できないことを子供のせいにして厳しい判断をくだすのは、子供を落胆させると思います。

主が子供に備えているものを与えないでいることも、子供を落胆させてしまうと思います。私たちは、「お前は、若すぎる。まだ、分かるわけがない。」と言わないでしょうか。イエスは言われました。「まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、はいることはできません。」（マルコ 10：15）

例えば、正餐式のためにすわっている 6, 7 歳の子供に、「とってはだめです。あなたは若すぎます。」と、言うかもしれません。しかし、この子供は、心からイエス様を愛しています。多分、その子供は、それ（正餐式）がどのような意味かすべて理解できないかもしれませんが、子供は、霊的なものに、参加することを許されるべきだと思います。そう望んだその時に。私は、いつもイエスのことばを思い出します。「子どもたちを、わたしのところに來させなさい。止めてはいけません。」子供は霊的なことに参加するように勧められるべきだと思います。

「父たちよ。（ギリシャ語では、父親と母親を意味する）あなたがたも、子どもをおこらせてはいけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。」（エペソ 6：4）一番悲しいと思った光景に、子供が本気に怒り狂うまで、からかい続ける親を見たことがあります。親が小さな子供に対して、哺乳瓶をあげるふりをして、それを遠くにやったりし、とどかないのを笑ったりするのを繰り返しているのを見たことがあります。また、親が幼い子供をからかい、子供が当惑するのを見て、楽しんでいるのを見たこともあります。親のすることで、最も、残酷なことだと思います。

子供たちをしつけ、主に対して主を求める心を持たせるべきだと思います。ソロモンは言っています。「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。」（箴言 22：6）親としての責任は、時間をとって、教え、訓練し、主に心を向かせるようにしつけることだと思います。

13. しつけ

私たちは罪を犯す性質を持っています。ダビデは言いました。「悪者どもは、母の胎を出たときから、踏み迷い、偽りを言う者どもは生まれたときからさまよっている。」（詩篇 58：3）ダビデは人間が邪悪な性質を持っていることを認めています。心理学や、適切さとか、放任主義というものがあります。「子供のしたいことをすればよい。押さえつけてはいけない。自由に表現させればよい。」この哲学によって、スポック博士は、私たちの国への大きな害をもたらしたと私は思います。ほっておかれた子供は、邪悪で、罪深い本能にまかされたまま、本質的によい子供ではありません。聖書では、「愚かさは子どもの心につながれている。懲らしめの杖がこれを断ち切る。」（箴言 22：15）と言っています。

「しつけ」と言うことばは、罰を伴う訓練と言う意味を含んでいます。子供を訓練するのは難しい仕事です。好きなことをさせるほうが、それをやめさせるよりも簡単でしょう。しかし聖書では、「わがままにさせた子は、母に恥を見させる。」（箴言 29：15）とも言っています。

子供をしつける時に、常に意識的に彼らの心に私たちの愛情が存在すること、彼らの愛が保証されていること、しつけられる時に愛を疑うことがないことを知っていることは、きわめて重要です。

どの子供も、生まれつきの心理学者として、罰を受けるとよくこう言うでしょう。「誰も、私を愛していない！あなたは、私を憎んでいる！」そんなことを子供から聞きたくないと思います。とこ

ろが、聖書では、「主は、愛するものを懲らしめる。」と言っています。箴言では、「むちを控える者はその子を憎む者である。」と私たちは教えられています。私たちは、罰やしつけを怠ったり、逆に厳しくしたりしてしまいます。そうすることで、子供たちを傷つけています。それは、子供が間違っていることを知っている時、その罪悪感を解放させる一番の方法は罰を受けることだからです。今日、多くの子供は、精神的に問題を持っています。子供は、自由奔放を許す親によって、罪悪感から解放されることなく、それを持ち続けているのです。

私が、子供のとき、父に反抗したら、父は言いました。「息子よ。家に帰ったら、自分の部屋へ行きなさい。話があるから。」私にはそれがどういう意味か分かっていました。父は、鞭をもって、話に来たのです。しかし、私は自分が悪かったと知っていました。家に着くまで、父と私との間には壁がありました。父と話せませんでした。私に罪悪感があったからです。私は罪人だったからです。

私の部屋に入ってきて父は言いました。「どうして、そんなことをしたんだ。息子よ。」

「知らないよ。お父さん。ただ、やっちゃったんだ。」

「息子よ。するなと言っておいただろう。でも、してしまった。どうしてだ？」

「知らないよ。」本当は知っていました。私は、そうしたいからしたけれど、黙っておこうと思ったのです。

「そうか。じゃあ、おしおきだ。」そして、私は、罰を受けました。私は、わざと大きな声で叫びました。叫んだら、打たれる数が減るかもしれなかったからです。死にそうになっているくらい、叫びました。父は、心を痛めて、部屋から出て行き、私はそこに寝そべって、死んでしまいたいくらいだと思いました。もし、死んでしまったら、父がおしおきをしたことを後悔すると思ったからです。

しかし、少しして、母親が夕食に私を呼びました。食堂にスキップして飛んでいきます。「はい。お父さん！」もう平気なのです。もう、罪悪感がなくなったのです。父と私の間の壁はなくなりました。私は、罰せられたので、罪の意識はなくなりました。もう、過去のことで、私の頭の中から消え去っていたのです。

何か、悪いことをして、それを見逃されていることほど、最悪な事はありません。そんな時、食卓についても、父の顔を見ることができませんでした。私がしたことを父は知りませんが、私は父が見破るのではないかと心配します。罪悪感があまりにも重たくのしかかってくるために、私は悲惨な2、3日を過ごすことになるのです。

現実と向かい合って、それを乗り越えた時ほど、すっきりする事はありません。

14. みことば

親として、子供を怒っている時に罰してはいけないことを気をつけなくてはなりません。なぜなら、罰を与えすぎてしまうからです。

多くの親は、子供に罰を与えると脅迫し、間違いを犯します。罰を脅迫してはいけません。そして、罰を約束して、それをしないのはいけません。ある親はいつも子供を脅迫します。「これをもう一回したら、ただじゃおかないから！」ただじゃおかないことをするつもりがないなら、言うべきではありません。いつも子供を脅かしていたら、子供は親の言うことに耳を傾けなくなります。また、脅かしてるだけだと、子供にはそれが分かります。子供が、あなたのことばを信頼できることを学ぶと、もう、どなる必要はありません。話すだけでよくなります。

声をあげることは、弱さの現われです。それはしつけがうまくできていない証拠です。私は、犬にどなるのは、犬がちゃんとしつけられていないので、そうします。「黙れ、シャーマン。」それでも、犬はほえ続けます。しかし、私は、「(大きな声で)黙れ、シャーマン！」と言うと、犬は静かになります。なぜでしょう？なぜなら、私が怠けているからです。私は、立ち上がって、犬のところに行ってしつけるのを拒むほど怠けているからです。

多くの場合、子供に関しても同じことが言えます。私たちは、子供にことばを使ってしつけることを学んでいないのです。私たちは、どなってしまう悪い癖に陥ってしまっています。

パウロは、テモテに書きました。「また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。」(第二テモテ3:15)テモテは、神のことばによって訓練されるよう、教えられていました。何という、祝福でしょう。

子供は、よいことを自然とするわけではありません。あなたは、善意と素直さと道徳的な価値観を子供に教えなければなりません。子供に、欺くことを教える必要はありません。自然とそれをします。でも、欺かないようには教えなくてはなりません。うそをどうやってつか教える心配はありません。自然とそれをします。でも、真実をいつも告げるべき事は教えなくてはなりません。本能的に罪の性質には弱いのです。子供は訓練されなくてはなりません。しつけられなければならないのです。

あなたは、しつける時、主に注意をおいて子供を育てなければなりません。しかし、あなたがそうするとき、その途中の段階で、彼らが両親の信仰を見て、彼ら自身の信仰を発見する過程で、あなたは数年間の試練を経験するかもしれません。彼らが出て行き、自分の羽をはばたかせようと、試す時、不安定な時期を通るでしょう。しかし、あなたは、子供たちが、幼い頃から、戻るように訓練されていた、神に戻るようにいつも確信することができるでしょう。ですから、うろたえないでください。あなたが誠実にしつけをしていたら、主が彼らを主に戻してくださることを知っています。そして、あなたは彼らの救いを見る際に報いられます。

15. 雇用者—被雇用者

最後に、聖書では、「奴隷と主人」の関係の特定の規則について定義をしています。実際、今日、雇われている奴隷は存在しませんが、奴隷と主人について書かれていることを、雇用者と被雇用者に置き換えて見るができるでしょう。私は、「奴隷」に関しての規則が、「被雇用者」にうまく当てはまると思います。

「奴隷たちよ。すべてのことについて、地上の主人に従いなさい。人のごきげんとりのような、うわべだけの仕方ではなく、主を恐れかしこみつつ、真心から従いなさい。」（コロサイ 3：22）私は、あなたが、イエス・キリストの証し人として、職場で最も効率よく働くものであるべきだと思います。私は、あなたが正直で前向きだと、信じてます。他の人に証しするという理由にしろ、席を離れすぎるのはよくないことです。すべき仕事を終わらせるべきだと思います。

あなたは、休み時間や昼食の時に、証しをするべきです。しかし、働くべき時に同僚に証しするのはよいことではありません。あなたの雇用主が見ている、隣の同僚の邪魔をしていると思うでしょう。それは、キリストのために、悪い証となってしまいます。それは、職場で盗むのと同じぐらい悪いことです。私は、雇われているものとして、誠意を尽くして、忠実であるべきだと思います。あなたは、働き者であるべきです。あなたは、イエス・キリストの証人として、最も利益をもたらすことを求めるべきだと思います。見かけだけでなく、人を喜ばすためではなく、主のためです。「何をすることも、人に対してではなく、主に対してするように、心からしなさい。あなたがたは、主から報いとして、御国を相続させていただくことを知っています。あなたがたは主キリストに仕えているのです。」（コロサイ 3：23, 24）

「主人たちよ。あなたがたは、自分たちの主も天におられることを知っているのですから、奴隷に対して正義と公平を示しなさい。」（コロサイ 4：1）聖書では、働くものに大きな影響を与えました。神は、働き者の味方です。神は、不正に給料を払うものについての批判を、何度か話しておられます。「聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲慘を思って泣き叫びなさい。あなたがたの富は腐っており、あなたがたの着物は虫に食われており、あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびが、あなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました。見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。そして、取り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いています。」（ヤコブ 5：1-4）神は、きちんと給料や賃金を払わない者の批判をします。私は、雇用主が働くものに、ふさわしい給料を払う義務があると思います。しかし、働く者はそれを働いて得なければなりません。「私たちの主も天におられるのです。」私たちに、最後の審判が、待ち受けていることを覚えておかななくてはなりません。それは、神によるものです。

要約

私たちは、生きている間に特定の役割をはたす、人間関係について見てきました。雇用主、父親、夫、妻、母親、子供、または、雇われるものとしてです。私の、霊的な立場は何でしょう？私の役目をどのように果たしたらよいでしょう？

神様、助けて下さい。私は、仕えるものとして、神の家族として、群れを牧する者としての神に対する義務に気付く時、同時に、妻と子供に対する義務があることも気付きます。そして、私はこれらすべての義務と任務をバランスよく果たそうと試みています。しかし、私にはできるはずがありません。

パウロが言ったように、「このような務めにふさわしい者は、いったいだれでしょう。」（第二コリント 2：16）しかし、パウロと共に、私は私自身がふさわしくないことに、神に感謝します。私をふさわしくしてくださるのはキリストです。私たちは、すべてにおいて、神に立ち返り、助けられ、導かれることを学ぶのです。